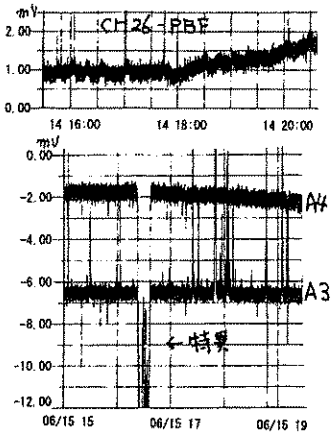
ＰＨＰ新書「地震予報」読者の皆様へ

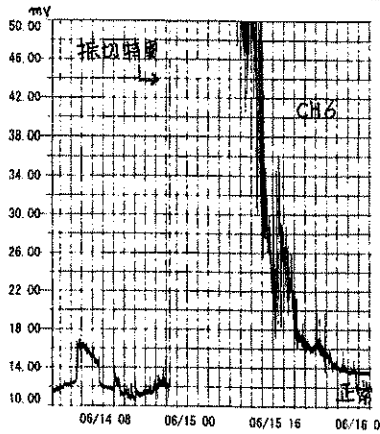
No.１７７８ 長期継続特殊前兆
原稿校了後の前兆変化について

続報 No.１４８
2016.06/16（木） 16:30 JST

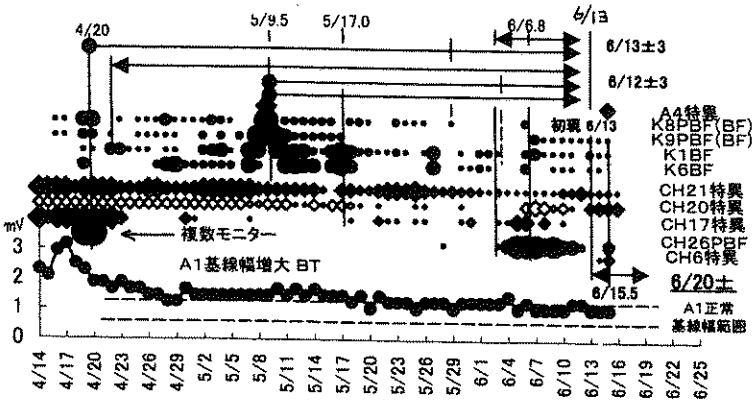
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

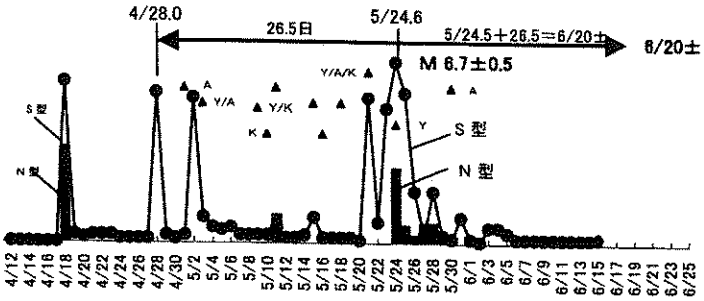
No.1778長期継続前兆 緊急報告 6/15極大➡６月２０日±発生の可能性有





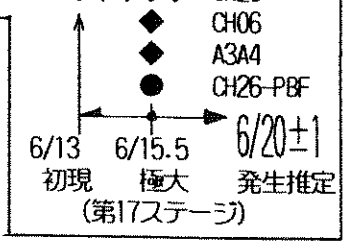
6月15日極大を示す前兆変動 CH26-PBF・A3A4, CH6特異





CH26-PBF 6/3.3初現~6/6.8極大 ——→6/13±を示す
他多数関係 6/12±を示す ——→

第16ｽﾃｰｼﾞは
第17ｽﾃｰｼﾞの初現6/13を示していた



6/12配信のNo2791観測情報及び(HP 続報No147)でNo1778前兆の対応地震は近々及び6月中発生の可能性は否定と報告致しました。

しかし、上波形参照の通り6/15に各種極大認識できる前兆変動を観測。CH26-PBF＝6/14 16h～6/16 0h(中心＝6/15 8h) A3,A4 特異＝6/15 15h30m CH6特異＝6/14 21h～6/16 6h(中心＝6/15 13h) 等。6/15が極大と認識。極大の平均中心＝6/15.5

CH20は6/13から基線が振切状態の特異が出現。それ以前の弱い特異状態とは異なる顕著な特異が継続しています。初現認識。

6/11迄の解析正しく第16ｽﾃｰｼﾞが示した6/13＝次期初現の可能性

６月中発生の可能性は否定としていましたが、前述のとおり、第16ｽﾃｰｼﾞが示していたのは,6/12-13±で、次の第17ｽﾃｰｼﾞの初現6/13(CH20)を示していた可能性が高いと思われます。そして、左上に拡大簡略記したとおり、6/15.5に極大が出現。下記参照。

CH20は6/13.3より特異出現。6/13.0を初現とするか、6/13.3を初現とするかで上記のとおり変わります。

- 6/13.0初現~6/15.5極大＝6/20±発生
- 6/13.3初現~6/16.5極大＝6/19±発生

前兆の一部が終息しなかったため、６月中発生の可能性は否定と考えましたが、前述のとおり、６月２０日±１に対応地震発生の可能性があります。深くお詫びし、救急報告とさせて戴きます。

現在継続前兆２つ(CH20,21)の前兆終息静穏化は地震発生の24時間程前になりますので確認後続報を出す時間が無い可能性有。

6/21迄に発生な<前兆継続の場合は続報します。

CH20特異＝継続中,
CH21＝静穏化傾向.

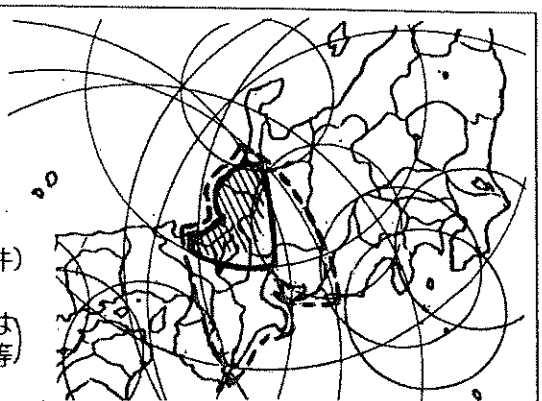
◆推定領域：右図
- 大枠推定領域＝点線領域内
- 推定領域 ＝太線領域内
- 参考推定領域＝斜線領域

◆推定規模：M7.８±0.５
（参考：火山帯近傍地殻地震前兆＝M6.７±0.５を示す）

◆推定時期：６月２０日±１（６月１９日±前兆終息が条件）

（※６月２１日迄に発生無く前兆継続、極大出現等の場合は実際の前兆終息を観測して計算。参考：７月１５日±等）

◇推定発生時刻：午前９時±１（又は午後６時±３）
◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震



※上図は最も考えやすい前兆出現影響局から求めた推定領域（太線内領域）です。可能性低いですが、影響局誤認の場合は全く異なる領域となります。仮に別の領域での発生となった場合は陳謝致します。

C) Copyright 2016 YSBO八ヶ岳南麓天文台

E-mil/FAX で配信の観測情報では6/15に報告済ですが、HP続報は本日6/16となりました。お許し下さい。また前兆が終息した場合E-mil/FAX で配信の観測情報では報告可能ですが、HP更新は好意で行って下さっている方に依頼のため、間に合わない可能性有。